

2月3日は節分。節分とは「季節を分ける」という意味があり、四季それぞれに節分があるとのこと。その中で、春夏秋冬と言われるように、1年は春から始まることから、立春の前日、2月3日が節分としてメジャーになっています。2月3日はいわば大晦日。新しい1年が始まる前日に、「これから始まる1年が、不幸や災いが無く、良い年になりますように」という願いをこめて、豆をまくようになったそうです。



さて、今回の豆まき交流には、1年生18名と2年生生徒会2名、合計20名が参加。事前準備として、鬼の面の作成、歌「豆まき」「春よこい」と、踊り「赤鬼と青鬼のタンゴ」の練習を行いました。鬼の面はみんな力作！さすが北高生です。踊りの方は…練習では恥ずかしそうにしていたのですが、きっと当日はしっかりやってくれると信じ、当日を迎えました。しかし童謡の「豆まき」、「春よこい」って生徒は知らないんですねえ。時代の流れを感じます(^;)。

H27.2.3 県立幼稚園交流体験 豆まき



いよいよ豆まき当日。タクシーに分乗し幼稚園へ。登園時間の慌ただしい中、大関副園長先生が元気に迎えてくれました。荷物を置き、会場の準備とともに、豆を煎る作業。豆まきに生の豆を使うと、拾い忘れた豆から芽（魔）が出てくることから、縁起が悪いと言われており、正式には煎った豆を使うのだそうです。香ばしい香りが園内に広がり、園児たちを迎え、いよいよ豆まきのムードが盛り上がります。

<ほし組さんとの交流>

豆まき集会の前にほし組さんとの交流です。まずは紅白に分かれて「玉入れ」。力を合わせて一生懸命玉を投げ、結果は1勝1敗。いい勝負でした(^^)。

次のゲームは「じゃんけん列車」。じゃんけんで負けた人が勝った人の後ろについて行きます。最初は園児同士のじゃんけんでしたが、だんだんと和んできて、あちこちで生徒と園児の「じゃんけんぽん！」と元気な声が響きます。楽しい時間はあっという間でした。



玉入れは好勝負！

<豆まき集会>



園児全員が集合し、いよいよ豆まき集会の始まりです。全員で「豆まきの歌」を歌ったあと、幼稚園の石附先生から節分のいわれについてのお話をお聞きしました。生徒にとっても勉強になる話でしたね。

続いて園児と生徒が、自分の中にいる退治したい鬼についての発表。「泣き虫鬼」や「遅刻鬼」、「なまけ鬼」などなど。みんなの中にはいろんな鬼がいました。生徒たち、頑張って退治するんだぞ！



豆まきの前に、全員で「赤鬼と青鬼のタンゴ」のダンス。練習の成果で園児との息もバッチリ。



いよいよ豆まきの始まり。園長先生（新潟北高校長兼務）の第一声の後、みんなで「鬼は～そと～！！」「福は～うち～！！」と元気に豆をまいていると…



ドンドン、バーン！！
太鼓とシンバルの音が響き、突如、4人の鬼が登場～！！園児たちはたちまちステージに追い詰められてしまいます。あまりの怖さに泣いてしまう園児も…

突如4人の鬼が幼稚園に！！

怖くて逃げていた園児たちも生徒たちと力を合わせて、鬼に豆をぶつけます。

「鬼が弱って来たぞ～！」

「もうちょっと頑張れ～！」

大関副園長先生の応援に園児も勇気を振り絞って豆をぶつけます。



園児たちの攻撃に、やがて鬼たちは退散～。園児たちと生徒が力を合わせて、怖い鬼を退治しました。やったね！！

みんなで豆を拾って、「春よこい」を合唱。幼稚園に平和な春が訪れました。

<おやつタイム>



豆まき集会のあとは、クラスでおやつタイム。力を合わせて鬼を退治した園児と生徒は、会話もはずんで、楽しいひとときを過ごし、交流体験は終了しました。



最初は、園児たちの元気に負けそうだった生徒たち。交流を深めているうちに園児たちの純粋な気持ちに心も癒され、普段の学校ではすることのできない、貴重な体験となったことと思います。

<生徒の感想より>

- ・「小さい子の発想ってすごいなと思った。短い時間だったけど、たくさん学べた。」
- ・「子供と遊んだりすることは楽しく、危ないことだと知った。勉強になった。」
- ・「子供たちとふれあうことができ、コミュニケーションをとることが大事だということ学んだ。」
- ・「将来について、よく考えるきっかけになった。幼稚園の先生の話方やまとめ方がものすごく上手であこがれた。」

など、本当に多くのことを生徒たちは学び、感じたようです。この経験を是非、これからの学校生活や進路選択に活かしてほしいと願っています。

幼稚園の先生方、ありがとうございました。是非また来年もよろしくお願ひします。



当日は報道各社も取材に訪れ、新潟日報夕刊やFM新潟で紹介されました。